
眠りの森の誰かさん 適当に思いついた編

ままま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠りの森の誰かさん 適当に思いついた編

【コード】

N0231Q

【作者名】

ままま

【あらすじ】

適当に思いついたONE PIECE系のトリップ型オリ主

序章

「な、なんだッ!?　ここ、こ、れは……ッ」

電伝虫（でんでん虫）についている現代で言うファックスのような機械から一枚の画像が流れてくる。それを手に取るのは、カモメのマークの入った白い制服を着た　海軍の軍人であった。一枚の画像、簡単に言えば”死体”のうつった画像だった。それも、殺してはならぬ、絶対に殺してはならぬ存在であった人間　否、天に住まいしもつとも尊く貴ぶ竜の子孫、天竜人。宇宙服のように全身を包むその様は間違い無い。

「う、うわああああ!!!??」

おもわず画像を手に取ったものは叫び出す。それを聞いたものもまた、何事か、そう言わずにはいられない。そして手に取る例の画像、天竜人の死を明確に、それも犯人自ら送りつけてくる惨状。理解できない、皆はそう思う。なぜならば、天竜人に何かをすれば海軍において最高戦力と言われる三大将のいずれかが何かをした人間を抹殺に来るのだ。

尤も　彼らが叫んだ理由は別にある。無論、天竜人が殺されたのもあるが事実、権力を盾にやりたい放題をする天竜達はひどい存在であったからだ。飲酒が下る、とは言ったものだが……それを考

える前に悲鳴を上げるような画像であったのだ。

「誰か連絡を入れる！！ うつつ、うげえ……」

画像には文字が描かれていた。そう描かれていたのだ。思わず海軍の一人が口を押さえてしまうほどの忌み嫌うべき邪悪な文字。あろうことか、天竜人のハラワタをえぐり出し、それを文字のように並べ意味不明にも、血沼の中であるというのに真っ白な杭で固定された文字。あれは……大腸か？あれは……小腸だろう。五臓六腑ぶちまけたそれは理解不能。

もう一度言おう、そのハラワタの持ち主は天竜人なのだ。殺すは言うまでもなく殴る蹴るだけで死ぬ、世界に群がる蛆虫共（海賊）を駆逐する最高戦力が襲ってくる、そうであるはずだった。後に呼ばれる彼こそは、世界最高戦力を退け、世界の敵となり、自由に生き、愛に活き、天に逝く。ああ、彼こそは

『天喰らうは眠りの森』

スリーピング・フォレスト

暫定名称”眠りの森”は討伐に来た大将赤犬^{サカズキ}を撃退、以後逃亡。

死傷者43名、佐官以上の階級を持つ者に対しては死傷者0。しかし大将赤犬は重体、されども前線復帰は問題ないとのこと。戦闘の結果より、眠りの森は悪魔の実の能力者、戦闘時の目撃情報より同じく暫定名称”ネムネムの実”の能力者である可能性が高い。霧状、光線状、爆弾状、ありとあらゆる形態から繰り出される攻撃は全て”睡眠”につながる超人系の能力者。睡眠とは全ての生物に備わる生命活動の一種であり、それを回避するのはまさしく”眠らない能力者”以外ありえないと推測する。

「あ、林檎つめえ」

名前は不明、身長は10歳前後の少年であり、天竜人を容易に殺す精神構造と大将を容易に排除する戦闘能力は極めて危険。同じく推測だが、佐官以上の者が一人とも死んでいないのは恐らく警告の類かと思われる。また目撃情報によれば、現場であるシャボンディ諸島を訪れた天竜人が、気が付いていたら死んでいた、と証言した。もし周辺の間人が”眠りの森”によって眠らされ、その間に殺したとなるのならつじつまも合うだろう。目撃者の気が失う前に見た最後の光景は、小さい青みがかかった銀髪の女の子を連れ去ろうとしていた天竜人と、天竜人に向かって歩き出した、身長的には10歳前後の少年の姿であった、と。

「ええーと、眠りの森に対して、莫大な賞金をかけるようにと天竜人の申し出もあった、とな」

眠りの森、賞金1億2千万ベリー

「ぜってえ最初につける金額じゃねー」

黒髪に黒い目、とてつもなく地味な服装にとてつもなくどこにもいそうな少年が、持ち出し禁止、と書かれた重要そうな書類に目を通していた。途中かじっていた林檎の汁が飛び大変なことになっているが気にしないように。彼は子供であった。先ほど賞金首になったのだが金額が金額、世界を滅ぼす可能性もある悪魔の子、ニコ・ロビンでさえ8千万辺りだ。わざわざ一匹の生き物殺した程度でここまでか、と彼は笑っていた。

「スリーピング・フォレスト……かけえけど恥ずかしいなあ。なんで俺がこんな世界に……」

ギーコ、ギーコと揺れる帆船の船首に座りながらのんびり気分。帆には巨大なドクロマーク、いわゆる海賊旗である。

「賞金2億5千万ベリーの船長に……あー、トータルで4億近い海

賊もこんなもなんかねえ……」

帆船……海賊船は紅く染まっていた。何を隠そう、海賊達の血で先ほどまで新鮮フレッシュに生きていたはずの海賊達は皆、脳に杭が刺さっており透明の液体と紅い血がぐちゃぐちゃに混ぜられた血噴を上げ、全ては肉のついた屍だった。

「眠りは平等なり」

後には、世界最高峰の10億ベリー近くの賞金がかげられる人類の天敵。あらゆる存在に眠りを与え、それこそ深淵なる森の警告だった。天を喰らわんと根を張り、枝を伸ばす永遠の森は今日もどこかで……養分を探していた。

「ねんねん　ころりよ　おころりよ　ぼつちはよい子だ　ねんねしな……おいでませゴア王国へ」

そうしてまた、天竜は地面に墮とされる

続かない

(後書き)

と、まあ私の思いついた最強系ワンプいの能力者でした。眠りを与え
る光線とか、霧とか煙を出す催眠人間ですね。眠りにも色々ありま
すが、ノンレム、レム睡眠といった普通の眠りや、麻酔による仮死
状態にする眠り、どっちも可能ですが永眠は無理ですね。

この能力俺も考えていたのにーって方は是非使ってやってください。
多分書きません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0231q/>

眠りの森の誰かさん 適当に思いついた編

2011年1月8日14時45分発行